

第3回南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出懇談会議事録

■日時

令和元年7月29日(月) 午前9時30分～午前11時20分

■場所

越谷市役所本庁舎5階第1委員会室

■出席者

- ・岸井隆幸座長(日本大学理工学部公共政策研究室特任教授)
- ・朝比奈一郎副座長(青山社中株式会社筆頭代表 CEO)
- ・熊谷玄委員(株式会社スタジオゲンクマガイ代表取締役)
- ・丁野朗委員(東洋大学大学院観光学部客員教授)
- ・黒川文子委員(獨協大学経済学部経営学科教授)
- ・熊木雄一委員(関東地方整備局建政部都市整備課課長)
- ・山科昭宏委員(埼玉県都市整備部都市計画課課長)
- ・井橋吉一委員(越谷商工会議所会頭)
- ・田崎尚樹委員(一般社団法人越谷青年会議所理事長)
- ・桃木利幸委員(越谷市商店会連合会会長)
- ・中里静博委員(一般社団法人越谷市観光協会副会長)
- ・石崎一宏委員(越谷市自治会連合会会長)
- ・喜多真一氏(埼玉りそな銀行越谷支店営業第一部長) ※島田秀一委員代理
- ・齊藤洋平氏(東武鉄道株式会社計画管理部課長補佐) ※小瀧正和委員代理
- ・鈴木寛委員(株式会社 JTB 埼玉支店支店長)
- ・中藤栄顕委員(ポラス株式会社経営企画部秘書室室長)

■配布物

- ・本日の次第
- ・南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出懇談会名簿
- ・市役所出席者名簿
- ・席次表
- ・第3回南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出懇談会プレゼン資料

1 開会

司会:

皆さま、おはようございます。

定刻となりましたので、第3回懇談会を開会させていただきます。

本日の司会を務めさせていただきます、越谷市市長公室政策課調整幹の木村でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

本日は、委員総数18名のうち、16名の委員にご出席いただいております。なお、本日は、山田委員、辻委員については、ご欠席とのご連絡をいただいております。また、中里委員、熊谷委員については、遅れていらっしゃる旨ご連絡いただいております。

それでは、ここで、岸井座長からごあいさつをいただきたいと存じます。

2 あいさつ

座長:

おはようございます。岸井です。本日は越谷市のデータを共有し、皆様からご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

司会:

ありがとうございます。続きまして、お手元の資料の確認をさせていただきたいと思います。本日の資料といたしまして、本日の次第、出席者名簿、第3回南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出懇談会プレゼン資料、以上3点をお配りさせていただいております。不足はありませんでしょうか。

それではこれから、座長に進行をお願いいたします。

3 議事

座長:

次第と順番が変わりますが、今日はまず議事(2)「市の現状分析調査結果について」として、副座長から越谷市のデータについてご共有いただきます。そういった市の状況を鑑みながら議事(1)、(3)の各委員からの意見等として、皆さんで議論を深められればと思います。

それでは副座長よろしくお願いいたします。

議事(2) 市の現状分析調査結果について

副座長:

改めましておはようございます。

30分ほどお時間をいただきましてご説明させていただきたいと思います。

お手元の資料、もしくは前に映写している資料でも構いませんのでご確認をお願いいたします。

本日の全体のアウトラインは全部で5個で構成されています。

まず、越谷の概況を俯瞰しまして、その後焦点を南越谷駅・新越谷駅周辺地域に絞って概況を申し上げます。その次に、こちらが本日の肝になってくるかと思うのですが、該当地域に近い地域をベンチマークとして洗い出して比較をします。そして4番目に、第2回の時に商店会の方々などにヒアリングさせていただきましたが、それとは別にも様々な方からもご意見を伺ったのでそちらを共有させていただきます。最後に、あくまでインプリケーションになりますが、サンシティをどのように活用していけるか、ということに関してのたたき台を提示させていただきましたと思います。

越谷市は一言で申し上げて、国家に匹敵する資源を持っている、ということが言えると思います。歴史・文化軸、ミラクルや大学などの科学・学術軸、農業技術センターやいちごタウンなどの農業軸、流通団地・工業団地などに代表される商業・産業軸、それからしらこぼと運動公園や球場、体育館などのスポーツ軸、それから県民健康福祉村や埼玉県立大学、獨協医科大学埼玉医療センターなどに代表される医療・福祉軸があると思います。

次に、埼玉県内でほぼ同じ人口を抱えており、都内の山手線駅からの距離も近い川越・所沢市と比較いたします。

まず人口ですが、越谷市は比較的人口増加が見込まれる市となっています。一方、川越市と所沢市を見ますと、所沢市は越谷市よりも早く高齢化が進んでおり、川越市は越谷市に近いがやや早く高齢化が進むような状況となっています。

次に、それぞれの主要駅の乗降人数と比較してみました。新越谷駅・南越谷駅の乗降者数は川越・所沢駅と比較して圧倒的に多いです。所沢駅は西武線間の乗り換え人数はカウントされていないのと、JRは乗車人数しかデータがないため単純に2倍にして比較しています。

次に、分担率というものを紹介したいと思います。パーソントリップという考え方がありまして、一人の人が平日の間にどのような手段で移動したのかを調査したもので、ご覧いただくと

わかるように、越谷市の鉄道・バスの分担率は川越市よりは高いが所沢市とはほとんど変わらない、ということがわかります。

これらのことから、移動に占める鉄道の重要性は高くはあるものの、駅の利用者数を鑑みるとあまり高くない、これは市外からかなりの人が乗り換えに利用していると考えられます。

次に、南越谷・新越谷駅周辺にスコープを絞ってご覧いただければと思います。

南越谷・新越谷駅周辺の状況として、まずは商圈調査について申し上げます。まず、半径1km圏内ですと、日用品などの消費がメインとなります。次に、半径5km圏内というのは家電などの買回り品の商圈に、そしてより広げて行くと単価が高い専門品の商圈となると言われています。後ほどベンチマーク駅との比較をご覧いただければと思いますが、比較的柏駅に近い、というような状況になります。南越谷・新越谷駅周辺は、商圈が広がるにつれて高齢化が進み、駅周辺は若い、というようになっています。

1次エリアで比較すると、越谷市や埼玉県平均と比較して生産年齢人口が多くなっています。1次エリアの単身世帯の割合は37%で、後述するベンチマーク駅と比較すると低めとなっており、マンションも需要はあると言えそうです。1次エリア・2次エリアを見ていただくとわかるように、レイクタウン周辺では人口増加が見られます。1次エリアの人口増加としては、周辺と比較すると多いですが、ベンチマークと比較すると多いとは言えない、というような状況です。

続きまして、従業者に関して詳細に見て参りたいと思います。

1次エリアの人口と比べると、従業者数は多いのですが、ベンチマーク駅と比較すると、必ずしも多いという訳ではない、というような状況になっております。1次エリアの第3次産業の従事者比率はやや低めとなっております。

続いて集客の状況ですが、鉄道沿線、幹線道路沿いに人が集まっており、そのほかのところは人が集まりにくい状況です。

交通インフラの状況ですと、東武線・武蔵野線の乗り換え人数が多く、毎年1~3%ずつ増加しています。幹線道路では、国道4号線と県道52号線を中心に通行量が多くなっています。また、国道4号の延伸も進んでおります。この地区の位置付けですが、越谷13地区の中で交通の結節点であることなどを踏まえると、越谷市全体のアイデンティティのショールーム的な位置付けになる、越谷の特徴をまとめた結節点として相応しいのではないかと考えています。

続きまして、今日の一番大事な点だと思っておりますが、ベンチマーク駅と比較してどうか、ということをお述べさせていただきます。

首都圏・山手線駅までどれくらい所要時間がかかるかをマッピングしたのになります。ふじみ野や所沢、横浜、船橋といった駅と同等の距離、ということが言えると思います。

次に、この中からいくつかの駅をピックアップして見ました。ベンチマーク駅としては、大きく分けて山手線駅からの所要時間が同等で、鉄道の路線が2路線以上の駅と、競合する近隣の駅の2パターンを抽出しています。北朝霞・朝霞台駅は東武東上線と武蔵野線の結節点であり、南越谷・新越谷駅と近いということで、1次エリアの人口・2次エリアの人口などを比較しています。

時間の都合上細かい説明は今回割愛させていただきますが、総括をお話させていただきますと思っております。端的に申し上げますと、事業所数は南越谷・新越谷駅周辺は9ヶ所のベンチマークと比較して下から3番目、従業者数は下から2番目、年間商品販売額も下から2番目というようにベンチマーク駅と比較するとかなり低い状況であることがわかります。裏を返して申し上げれば、まだまだ伸びる余地があると言えるでしょう。規模が大きい商業施設などがあれば生産性が高まる可能性があります。

これをさらに吸引率という考え方で説明しています。その地域の年間の小売支出のうち、実際に南越谷・新越谷駅周辺でどれくらい吸収しているのか、というのを見るのが吸引率です。50ページをご覧くださいますとわかる通り、新越谷駅周辺1km圏の吸引率は65%となっています。北朝霞駅と比べると高いのですが、そのほかのベンチマーク駅と比較すると非常に低いと言えます。裏を返せばこの地域で消費を吸収する余地があるのではないか、と思います。吸引率が100%を超えるというのがどういうことかという、地元消費を超えて外部の需要を満たしているということです。現在の商業環境を考えますと、売場面積あたりの効率は良いですが、もう少し吸引の余地があると言えます。

その次がヒアリング結果のまとめとなります。

委員の先生方にも大変協力いただきまして、学生さんなどは獨協大学の黒川先生にご紹介いただきました。学生、子育て世代、福祉関係者、地区コミュニティ推進協議会関係者、バス・タクシー事業者、そして自治会・商店会関係者の皆様にヒアリングさせていただきました。

乗換え駅でとどまらないためには、南越谷・新越谷からパッと連想されるようなシンボルが必要なのではないか、という声が多かったです。

現在ある機能として残して欲しいものを「現在のアイデンティティ」としてまとめさせていただいていますが、図書室、飲み屋街、行政機関、ホールなどの声があがっていました。

今ないもので欲しい「ニーズがある施設」ということでは、子どもやペットと遊べるような公園・広場、子どもが室内で遊べるようなキッズプレイスペース、市民の方々の間では「レイクタ

ウンとの比較」が入っていますが便利な駐車場が欲しい、外部から人を呼ぶための宿泊施設、飲食以外で遊べる場所、交通の結節点としての防災拠点、という声がありました。

以上がデータ分析と皆様の声の取りまとめとなります。

続きまして、サンシティの機能候補としてたたき台を準備いたしました。なかなか絞り込むのが難しいところではありますが、たたき台をベースに議論を深められればと思います。

まず、シンボリックな施設が必要なのではないか、という抽象的な問いに対して、図書室機能を残しつつ拡張していく事例として図書館を調査いたしました。武蔵境の武蔵野プレイスや川崎市・武蔵小杉の中原図書館などが成功事例として挙げられます。また、地域密着型の成功事例として守山市、伊万里市の事例が挙げられます。海外事例として注目されているところだと、デンマーク・オーフスの図書館などが有名です。オーフスは越谷と近い人口 30 万人の都市なのですが、親子のための図書館などが賑わいを見せています。また、図書館そのものではないですが、柏の葉 T-SITE などの事例や COREDO 室町に誠品生活が入るなどの話題があがっております。

続きまして、公園ですが南池袋公園などが事例として挙げられると思います。

商業施設につきましては、吸引率を元に考えると、現在南越谷は 65%ですが草加レベルの 83%の吸引率を見込むと、プラス 5,800 m²分の売場を現在のサンシティに追加できるようなイメージです。商業施設の具体的な案としましては、映画館などのアミューズメント施設のほか、子ども向けの遊べる場所ということで、キッズニアやカンドゥーなどの施設が挙げられます。

また、チームラボなどのアート関連施設、DMM.MakeAKIBA などのインキュベーション施設、越谷市外からも人を呼び込むためのホテルなどの機能が考えられると思います。

サンシティ周辺のホテル事情を簡単にみますと、草加・越谷エリアはホテルがあまりない、というような状況になります。

MICE という考え方も注目されておまして、MICE マイスターの川崎さんからもお話を伺ったのですが、ただ箱を作るだけではダメで、最初からコンセプトを持って箱を考えていく必要がある、ということです。世界的には MICE 需要が増加はしているということなので検討の余地はあると思われます。

最後、オフィス需要の話でございますがピークは超えた感もありますが、機能的にはオフィスなども考えられると思います。

また、市民の方々の声を鑑みると、駐車場、交通拠点といったことも検討できるのではないかと思います。

以上、私の方からたたき台をご提示させていただきました。

議事(1) 各委員からの意見表明について

議事(3) 各委員の意見、市の現状分析調査結果を踏まえたフリーディスカッション

座長:

ありがとうございました。続きまして委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

A委員:

こういうものがサンシティにあったら良いのではないか、ということを発表していただきたいということで考えをまとめてまいりました。

越谷は便利、というのが率直な感想です。資源が豊富。住むととても楽しいのではないか、というような印象です。ただ、この「便利」という印象が提供されるサービスによって支えられている、となると怖いです。サービスに支えられた便利というのは、無関心な人たちを増やす、そういう怖さが増すというのがあります。サービスの過剰提供をしてしまうと、まちの未来を潰してしまう可能性があります。サービスの受託者を増やしていく方針だと疲弊します。

一方で、イベントを主体的にやってくれる人を増やす、というような方針もありえます。「自分たちの仲間をあと5人増やす」という風に考えるような人を中心としたまちづくりということを考えていければと思います。

だいたいどこもこの問題に直面しています。新宿ですらそうです。街を愛する人たちがどんどん減っていく、というのが問題です。

市民活動の場づくりが必要なのですが、そういった面でサンシティの敷地をみえますと、駅前の入り口のような位置になる、ということが言えます。

駐車場などの交通計画も考えると、歩いて過ごせる駅前を作れたり、商店街とどう共生していくかを考えたりできます。

青森県八戸市にはハッチという施設があるのですが、ハッチは施設全部が広場です。建物を含めた全体が、そこに住む人々の日常を支える居場所になっている、と言えます。都城もいい事例です。

何もしないでもいられる場所、消費活動をしなくても参加できる、まちにおける生産者として参加できる場所というのが広場なのだと思います。

サンシティの場合だと、そこに何をつくると市民活動の場となるかを掛け合わせて足していくというよりは、人が集まるためにどう作るか、という質の議論を深めていけたらなと考えています。

座長:

ありがとうございました。

では、他の委員の皆様からもご意見をいただければと思います。

B委員:

前回お話したように、この開発は極力急ぐべきだと思います。所沢駅と比較して、低いのは消費だと。その原因は、乗換え客が多いがまちに入っていないのだな、というのを肌で感じます。それを急ぐ必要があるのではないかと思います。消費を促進する、まちに出てみたいと思うようなまちづくりが必要だと思います。以上です。

座長:

商業関連のご意見が出たので商工関係としてC委員いかがでしょうか。

C委員:

消費のための場を作る、という考え方です。いくらお店が頑張ってお店ができて、集客ということでみると1軒では限りがあります。そういったことから魅力的な集客施設がやはり必要だと考えております。以上です。

座長:

ありがとうございます。集客施設、ということですね。

他にご意見ある方はいらっしゃいますか。

D委員:

いわゆる消費を起こす「魅力あるお店」が必要だと思います。交通の結節点という機能は素晴らしいですが、そこからワンストップで消費に進めるようなものが必要です。

ホテルは必要ではないかと思えます、以上です。

E委員:

観光の流れとしては日常に回帰している、ということが言えると思います。まちが楽しくなければいくら観光しても楽しくない、ということが言えると思います。

2点だけ感想を申し上げたいと思います。

1つが越谷周辺都市と同じような競い方でいいのか、というのが論点としてあげられると思います。越谷周辺は農地です。都心からこんなに近いのにこんなにも緑がある。1番のポイン

トは、圧倒的な緑なんです。色々な機能を付加するというよりも、都心からきてクールダウンできる、クールタウンのようなものが良いのではと考えます。

2点目は市民力についてです。私は高知の出身でありまして、よさこいの聖地です。越谷は阿波踊りがすごいです。地元の方々が街を作り上げていく、というのが実は観光の一番の資源になります。

F委員:

考え方としまして、賑わいの作り方として、乗降客をどのように取り込むか、そしてそれ以外をどのように取り込むか、の2つの視点が必要なのではないかと思えます。

乗降客を取り組む一案ですが、例えば私は週2~3回スポーツジムに行くのですが、サラリーマンの方など、定期的に駅を降りてスポーツジムなどに行くなど、会員になって通うような施設は駅から人をまちに呼び込むと思えます。映画館は上映内容が入れ替わるので、定期的にいくようになると思えます。

また、土日に周辺の方が南越谷・新越谷駅周辺に行きたいと思ってもらえるような機能に関してですが、3つのセグメントに分けて考えると良いと思っています。

まず、子育て世代ですが、子どもは特に「こと」消費のニーズがあると思えます。スポーツなどで体験型の施設があると良いと思えます。

次に、生産年齢についてですが、「モノ」消費のニーズを満たせると良いと思えます。

高齢世代についても、アクティブシニア層は多いのでジムなども昼間は高齢の方が多かったです。ゆっくりできる公園やカフェなどを作ると使われるのではないのでしょうか。

座長:

ありがとうございます。G委員、いかがでしょうか。

G委員:

サンシティの場所でのぎわいが創出されるものを話す前に、今後あの場所を、にぎわいを創出する人たちが使える場所にしていく必要があるのではないかな、と思えます。

青年会議所では「お腹が空いている人がいたら魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えよ」ということがよく言われています。

同じように、まちを作っていくのに力を貸してくれる人が集まるような場所にするのが良いのではないかと思えます。例えばホールや会議施設などがあるとそのような人を呼び込めますし、あの場所に人が集まってくると、駅から近いと言っても少し歩くので、周りの商店街など

も盛り上がっていくのではないかな、と思います。まずは人が集まる場所を作れば、周りが商業として発展していくのではないかと考えました。

建物自体としては、外から見たときに魅力を感じられるものがよいと思います。太田の駅前にある建物や柏の葉の施設など、外から見ただけで行ってみたいと思わせます。降りて初めて行きたいと思えるようなものではなく、電車の中から行きたいと思わせるような施設が良いのではと思います。

H委員:

越谷に住んで50年ほどなので、色々な方と関わることも多く、その中には安心して住める、ということでよそから来た方も多いです。みなさん住み良いから越谷にきているんです。催し物が多いまちです。

南越谷に行くのはどんなときかを考えてみます。高齢者の方は、良いものを買おうというときには南越谷に行きます。日常的な、普通に過ごす中でなかなか南越谷に行ってみようという気にならない、という状況で、魅力がかけてきてしまったのかな、と思います。

今までない発想を地域全体に入れ込みたい。新しいまちづくりというのは郊外だけではないと思います。色々なまちが集客をして発展させていますが、色々な形のものがあると思うので、その辺に参考になりそうなものがあるのではと思います。

まとまった話にはなりかねますがそういったことを感じています。

座長:

ありがとうございます。レイクタウンがなかったときには南越谷が中心だったかと思います。

I委員:

商業施設とホテルということだけだと特徴が出ないということを考えると、どのように特徴を出すかを考えていかなければならないと思います。

私は武蔵浦和に住んでいるのですが、南越谷は飲食店街以外に立ち寄るということはやはりなかなかありません。広場などの消費に限らない空間をまず作り、その周辺の商業施設も活性化していく、というのもいいかと思います。

J委員:

JR武蔵野線との乗換え駅ということになります。私も日々乗換えをしているのですが、新越谷駅東口から降りる人のほとんどがJRへの乗換え者で、なかなか消費には結びついていないのかな、と思います。

乗換え客が多いという特徴をもっと活かさないかなと思います。最大のパイがビジネス利用なのだとしたら、その層を取り込んでいければと思います。日々ご利用いただけるような飲食、月額・定額制で利用できる飲食など何かしらの施設があれば最大のパイであるビジネス利用客を取り込んでいけるのではないかと思います。

K委員:

観光の面と施設の面をお話させていただければと思います。

越谷市に関しては近隣都市からアクセスが良いということをどのように活用していけるかが重要だと思います。レイクタウンで買った荷物を預かる、などもありますが、川越市は観光客が多いものの夜は帰ってしまい消費が伸びないということが言われていますので、そうならないよう手を打てればと思います。

甲府は駅前に山梨県立図書館があり、県立図書館では有数の利用者数があるということで、特色としては図書館以外の機能、会議室が大小 6 つあり、その中には防音の会場もあつたりします。椅子だけで 500 人くらい入れるようなイベントスペースもあつたりと、図書館以外の機能も備えておりました。図書館というところが一つ MICE とまではいかななくてもちょっとした展示会や会議などをできるような機能も付加させられればと思いました。

L委員:

武蔵野プレイスという施設が家の近くにありまして、この施設ができてからまちににぎわいのできたな、と感じております。この施設は具体的には、図書館がメインにはなっているものの生涯学習の施設であつたり、子どもたちが使いやすい機能なども有しています。

この前の土曜にも行ったのですが、座るところもないくらいに人が入っています。カフェが併設されており、図書館の本を読みながらカフェを楽しめるということがあり、市民の利用もかなり多くなっています。

武蔵野市は吉祥寺、三鷹、武蔵境の 3 駅があり、以前は市内の買い物先は吉祥寺がメインでした。ただ、武蔵野プレイスができてからは三鷹の方々がプレイスを目指して武蔵境に来るようになりました。そしてその隣にはイトーヨーカドーがあるのですが、ヨーカドーにも良い影響があるのではないかと思います。

高齢化はまだまだこれからだということもあるならば、様々な世代のコミュニティをミックスできる施設を作るのが良いのではないかと思います。

商業施設という点では、個々の小売店の集客能力だけに限らないものがあればと思います。

M委員：

まちづくりの観点からは、県の定める都市計画マスタープランがあるのですが、その中では南越谷は「中心拠点」として位置付けられており、多様な都市機能を集結し街の顔となるようにと考えられています。

サンシティの機能として色々な案がありましたが、複合拠点となることは求められていると思います。複合拠点としてはソニックシティが県内の事例となります。ホール、公園、コンベンション機能など多様な機能を持った施設となっていますが、面積的にもソニックシティ周辺は1.75haということでサンシティに近いのかなと思います。大宮駅から歩いて3分くらいで地上31Fのシンボリックなタワーとホール、公園があるのですが、サンシティもそのような複合施設を目指したら良いのかなと思います。

色々な施設が入るとボリュームも増えて高くなると思います。そうすると駅からも目立つようになり、シンボリックな施設になるのではないかと思います。

N委員：

南越谷・新越谷駅周辺の長所・短所が把握できてよかったのですが、今後の建替えなどを考えていくと、やはり一つ大きな方向性としてどこを目指していくべきかを議論すべきだと思います。

大きく言うと、駅周辺の住民をターゲットにしていくのか、乗換え客をターゲットにしていくのか、10km圏内をターゲットにしていくのか、と言うのも合わせて議論できるかいいのかなと思いました。

もう一つは、何かをやっていくときに商業やにぎわいが欲しいと言うのはありますが、今後の話として、出店していただけるときに乗ってくれるプレイヤーがいるのか、など夢物語を語るだけではなく実現に結びつけて行けるような話なのかを詰められればと思いました。

座長：

ありがとうございました。図書館はキラーコンテンツでどこでも人を捕まえられるのでそれを生かしていく、というような話、人を育てていくことにフォーカスをあて、そのための施設を作るという話、今日はあまり出ませんでした。越谷市全体と南越谷をどう結びつけて考えていくかというテーマもあるかと思います。

事務局からこれからの進め方に関しては何かご説明がありますか。

事務局：

今日みなさまからいただいたご意見をもとに、コンサルタント業者と一緒に構想案のたたき台を作りまして、第4回・第5回にみなさまと一緒に完成させていければと思います。

座長：

二子玉川や柏の葉など新しい拠点として育成が進んでいるなど、周辺にも事例はないわけではありません。流山では力強い市民活動が行われていますし、そういったことを越谷で起こして行けるかを考えていければと思います。

E委員：

品格があるまちを作れたらと思います。越谷のまちは長い歴史を持ったエリアです。レイクタウンは全く新しいエリアです。これはテーマで生きているまちだと思います。テーマはなにか、と言うことが見えにくいと思います。品格と同時に、まちにはブランドと同じように物語が欲しい。物語というのは南越谷駅・新越谷駅周辺単独で作るのか、越谷市全体で作っていくのか考えなければいけません。

緑の拠点といいますが、クールタウンという話もしましたが、豊かな農地と緑を持っている越谷ですが、南越谷駅・新越谷駅周辺は緑を感じにくいエリアとなっています。

そういったところを考えていました。

座長：

駅から2kmいくと市街化調整区域に入るような越谷はかつて都市開発に厳しいまちとして有名でした。武蔵野線はもともと貨物線ですし、乗り継ぎなどは全く考えられていなかったわけです。歴史を紐解いて作っていく、というのもとても大事だと思います。

H委員：

越谷市全体のまちづくりと駅周辺の開発は当然連動いたしますし、うまく調和できれば思っております。

A委員：

クールタウンの話を伺うなかで、生産緑地問題が結構ポイントになるかな、と思います。生産緑地の話と南越谷駅周辺をどのように考えていくかが大事になっていくと考えます。

4 その他

座長:

他には何かありますでしょうか。ないようですので以上となります。

司会:

岸井座長、ありがとうございました。

次に、次第の「4 その他」でございますが、委員の皆さまに連絡事項があります。

まず、次回の懇談会の開催予定についてご連絡させていただきます。次回第4回懇談会につきましては、現在日程を調整中で、10月ないしは11月の開催を予定しております。後日、開催通知を送らせていただきますので、そちらをご覧くださいますようお願いいたします。以上です。

他に皆さまから何かございますでしょうか。

特に無いようでしたら、本日の会議は以上となります。

本日は長時間にわたり、誠にありがとうございました。

それでは、「第3回 南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出懇談会」を終了いたします。お疲れさまでした。